② ヒ素　本品0.5g（0.45～0.54g）を量り、ヒ素試験法第３法により試料溶液を調製し、装置Aを用いる方法によりヒ素の試験を行うとき、吸収液の色は、標準色より濃くてはならない（４μg/g以下）。

③ ２-メチル-１，４-ナフトヒドロキノン-３-スルホン酸塩　本品0.10g（0.095～0.104g）に水５mLを加えて溶かし、o-フェナントロリン試液２滴を加えるとき、沈殿を生じてはならない。

水分　10.0～16.5%（0.2g）

定量法　本品約0.3gを0.001gの桁まで量り、その数値を記録し、水20mLを加えて溶かし、クロロホルム20mLを加え、炭酸ナトリウム溶液（１→２）５mLを少量ずつ加えながら振り混ぜ、更に激しく振り混ぜた後、クロロホルム層を分取し、水層は更にクロロホルム20mLずつで２回抽出し、全クロロホルム抽出液を合わせ、水10mLで洗い、あらかじめクロロホルムで潤したろ紙を用いてろ過し、クロロホルムで洗い、ろ液及び洗液を合わせ、150mLのフラスコに入れ、水浴上でクロロホルムを蒸発させる。次に、常温で窒素を送りながら、蒸発乾固し、残留物に氷酢酸20mL及び希塩酸15mLを加えて溶かし、亜鉛末３g（2.5～3.4g）を加え、ブンゼンバルブ栓を付け、しばしば振り混ぜ、暗所に１時間放置した後、綿栓を用いてろ過し、新たに煮沸し冷却した水20mLずつでフラスコを３回洗い、ろ液及び洗液を合わせ、30秒以内に0.1mol/L硫酸第二セリウムアンモニウム溶液で滴定する（指示薬　o-フェナントロリン試液２滴）。同様の方法で空試験を行い補正する。

0.1mol/L硫酸第二セリウムアンモニウム溶液１mL＝13.81mg$C_{11}H_8O_2$・$NaHSO_3$

⑷ 保存の方法の基準

遮光した気密容器に保存すること。

イ　製剤（その１）

⑺ 成分規格

メナジオン亜硫酸水素ナトリウム製造用原体の成分規格を準用する。

⑷ 保存の方法の基準

メナジオン亜硫酸水素ナトリウム製造用原体の保存の方法の基準を準用する。

ウ　製剤（その２）

⑺ 成分規格

本品は、メナジオン亜硫酸水素ナトリウム製造用原体に、亜硫酸水素ナトリウム及び賦形物質を混和した粉末又は粒子である。

含量　本品は、定量するとき、表示量の90～130%に相当するメナジオン亜硫酸水素ナトリウム（$C_{11}H_8O_2$・$NaHSO_3$・$3H_2O$）を含む。

確認試験　本品の表示量に従い、メナジオン亜硫酸水素ナトリウム製造用原体0.1gを含む量を量り、水100mLを加え、振り混ぜた後、ろ過する。ろ液２mLにエタノール１mL及びアンモニア試液１mLを加え、振り混ぜ、以下メナジオン亜硫酸水素ナトリウム製造用原体の確認試験②を準用する。

定量法　硬化油を含むものにあっては第１法を、その他のものにあっては第２法を用いる。

第１法　メナジオン亜硫酸水素ナトリウム（$C_{11}H_8O_2$・$NaHSO_3$・$3H_2O$）約0.1gを含む量の本品を有効数字３桁まで量り、その数値を記録し、分液漏斗に入れ、水30mL及びn-ヘキサン30mLを加え、激しく振り混ぜた後、水層をろ過する。分液漏斗及びろ紙上の残留物を水10mLずつで２回洗い、ろ液及び洗液を合わせる。残ったn-ヘキサン層に水20mLを加え、振り混ぜた後、水層をろ過し、ろ紙上の残留物を水３mLで洗い、先に合わせたろ液及び洗液に合わせ、100mLの全量フラスコに入れ、水を標線まで加えて100mLとし、試料溶液とする。別に、定量用メナジオン亜硫酸水素ナトリウム約0.1gを0.001gの桁まで量り、その数値を記録し、水を加えて溶かし、100mLの全量フラスコに入れ、更に水を標線まで加えて100mLとし、標準液とする。試料溶液５mLずつを100mLの褐色全量フラスコT及びT′に全量ピペットを用いて量り、それぞれに水80mLを加え、よく混和し、さらに、アンモニア・イソプロパノール混液（１：１）２mLを加え、振り混ぜた後、Tには、30秒以内にシアン酢酸エチルのイソプロパノール溶液（３→20）４mLを加え、振り混ぜ、次に、30秒以内に水を標線まで加えて100mLとし、T′には、30秒以内に水を標線まで加えて100mLとする。別に、標準液５mLずつを100mLの褐色全量フラスコS及びS′に全量ピペットを用いて量り、試料溶液の場合と同様に操作する。５分間放置した後、それぞれの溶液につき、水を対照液とし、波長565nm付近の極大波長における吸光度A_T、A_T'、A_S及びA_S'を測定する。

メナジオン亜硫酸水素ナトリウム（$C_{11}H_8O_2$・$NaHSO_3$・$3H_2O$）の量（mg）
＝定量用メナジオン亜硫酸水素ナトリウム（$C_{11}H_8O_2$・$NaHSO_3$）の量（mg）
$\times\frac{A_T-A_T'}{A_S-A_S'}\times 1.1957$

第２法　メナジオン亜硫酸水素ナトリウム（$C_{11}H_8O_2$・$NaHSO_3$・$3H_2O$）約0.1gを含む量の本品を有効数字３桁まで量り、その数値を記録し、水60mLを加え、激しく振り混ぜた後、ろ過し、ろ紙上の残留物を水10mLずつで２回洗い、ろ液及び洗液を合わせ、100mLの全量フラスコに入れ、水を標線まで加えて100mLとし、試料溶液とし、以下第１法を準用する。

⑷ 保存の方法の基準

遮光した密閉容器に保存すること。

⑻ ヨウ化カリウム

ア　製造用原体

⑺ 成分規格

含量　本品は、105℃で４時間乾燥した後、定量するとき、ヨウ化カリウム（KI）99.0%以上を含む。

物理的・化学的性質

① 本品は、無色若しくは白色の結晶又は白色の結晶性の粉末で、臭いはない。

② 本品は、水に極めて溶けやすく、グリセリンに溶けやすく、エタノールにやや溶けやすい。

③ 本品の水溶液（１→10）のpHは、7.0～9.0である。

④ 本品は、湿った空気中で僅かに潮解する。

確認試験　本品の水溶液（１→20）は、カリウム塩及びヨウ化物の定性反応を呈する。

純度試験

① 溶状　本品1.0g（0.95～1.04g）に水２mLを加えて溶かすとき、その溶液は、無色で、澄明でなければならない。

② 重金属　本品2.0g（1.95～2.04g）を量り、重金属試験法第１法により試料溶液を調製し、鉛標準液2.0mLを用いて比較液を調製して重金属の試験を行うとき、試料溶液の呈する色は、比較液の呈する色より濃くてはならない（10μg/g以下）。

③ ヒ素　本品0.40gを量り、ヒ素試験法第１法により試料溶液を調製し、装置Aを用いる方法によりヒ素の試験を行うとき、吸収液の色は、標準色より濃くてはならない（５μg/g以下）。

乾燥減量　1.0%以下（２g，105℃，４時間）

定量法　本品を105℃で４時間乾燥し、その約0.5gを0.001gの桁まで量り、その数値を記録し、共栓フラスコに入れ、水10mLを加えて溶かし、塩酸35mL及びクロロホルム５mLを加え、振り混ぜながら0.05mol/Lヨウ素酸カリウム溶液でクロロホルム層の赤紫色が消えるまで滴定する。この場合において、滴定の終点は、クロロホルム層が脱色した後、５分以内に再び赤紫色が現われないときとする。

0.05mol/Lヨウ素酸カリウム溶液１mL＝16.60mgKI